

第 1 章

基本構想



第1節 まちづくりの基本理念

可能性全開！ 夢と希望をはぐくむ まちづくり ～ひとりひとりが主役 住みよい県央都市 あいら～

1 基本理念

基本理念とは、まちづくりを行っていく上で、最も重要な基本姿勢であり、また、長期にわたって目指すべき方向性と本市独自のまちづくりの在り方を示すものです。

本市は、自然災害から市民を守り、県央に位置する利便性や、自然の恵み、豊富な人材による知徳を活かしながら、都市的な機能と田園が融合したまちとして、持続的に発展させるために、本市の持つ潜在的な可能性を活かし、市民と一体となった、多様性豊かな魅力あるまちづくりを進めます。

1 県央という地勢が創り出す始良市の可能性(ポテンシャル)を活かす

本市は、市内を流れる3つの大きな河川により形成された扇状地を中心に、まとまりのある地勢で、鹿児島(錦江)湾沿岸部には江戸時代に主要街道として整備された大口筋と日向筋が通っており、古くから交通の要衝となっています。現在は、その古道に重なるように、国道とJRが通っており、また県の幹線道路も通っています。

そのため、県内各地への移動が容易であることから、人の往来が多く居住しやすい環境であり、住宅や商業施設、流通業等の新たな投資の可能性とそれによる地域振興が期待されています。また、加治木、蒲生地区の中心市街地から、始良地区にある市役所本庁舎まではほぼ等距離にあり、市内の道路も循環できる道路網を形成しています。さらに、市外から本市への移住者も多く、新たな「ふるさと」に対する地域貢献の意欲も旺盛であり、これらは人的な地域資源にもなっています。

このように受け継がれてきたまちの良さや作り上げたまちの特徴を活かすとともに、環境の変化を見据え、現在だけではなく、将来の新しい発展の可能性につながるまちづくりを行い、市民一人一人が夢と希望を持てる「まち」にすることを基本理念とします。

2 「くらしやすさ」をさらに高める

本市は、県下人口第1位の鹿児島市と第2位の霧島市などと隣接しており、また、県央としての位置的優位性もあり、県内で唯一人口が増加する市となっています。

市民と行政が共に力を合わせてまちづくりを進め、市民一人一人が、始良市としての一体感のもと、多様性のある自然、歴史、文化に誇りと愛着を持ちながらいきいきと暮らし続けること、そして、このことを、次代を担う子どもたちに引き継いでいかなければなりません。

そのために、すべての人が安心して暮らせるよう保健、医療、福祉体制の充実や緑豊かな自然を活かした快適な居住環境の整備をはじめ、次代を担う子どもたちを生み育てやすい環境の整備などの取組を進め、市民生活において、ゆとりや快適さなど、暮らしの質の向上を重視する政策を進めることを基本理念とします。

3 「協働」を深化させる

本市は、市制施行後、市民の一体感の醸成や地域間ネットワークの構築を目指して各種施策に取り組んできました。

市民の価値観やライフスタイルが多様化する中で、誰もがいきいきと自分らしく暮らすことができる地域社会を実現するためには、市民と行政が、それぞれの役割を果たしながら、本市が抱える様々な課題の解決に向けて、協働して取り組むことが求められています。

市民は、自らがまちづくりの主役であるという認識のもと、主体的な活動を充実させ、一方、行政は、市民を支え、ともにまちづくりを進める環境を整え、これまで取り組んできた市民協働を更に深化させることを基本理念とします。



2 地方創生の取組と人口の将来展望

本市では、2016年(平成28年)3月に策定した「始良市人口ビジョン」により人口の将来展望を提示しました。

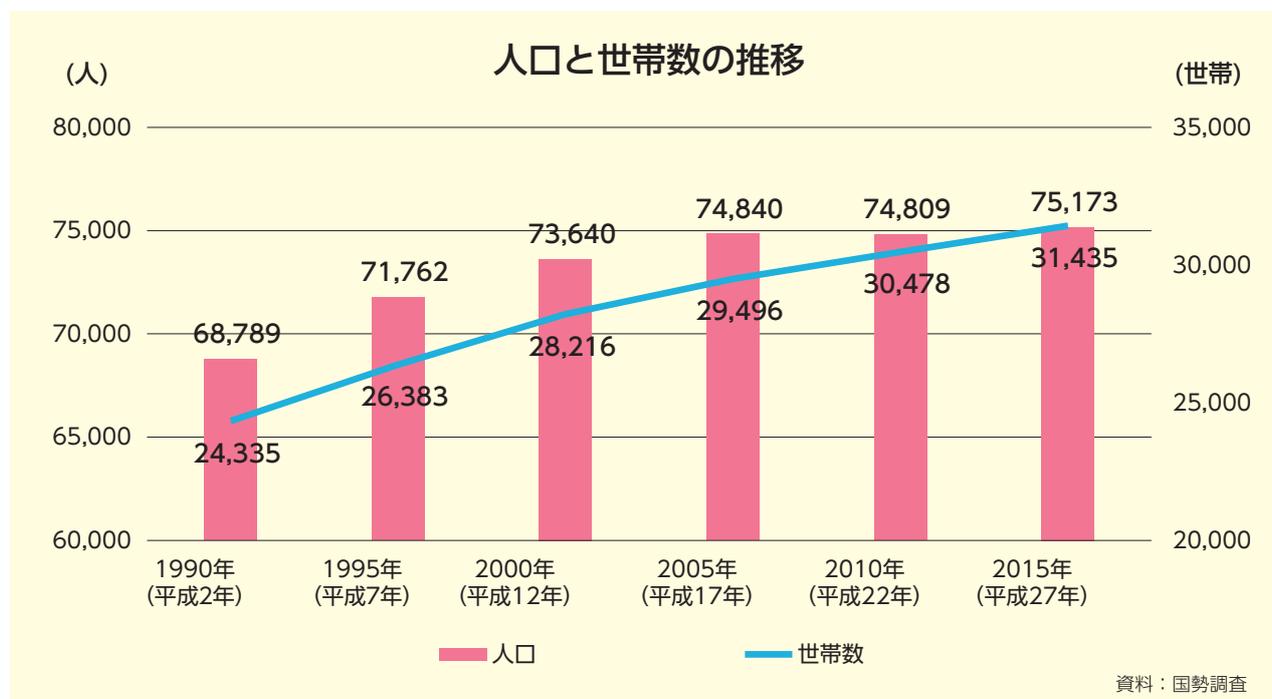
国立社会保障・人口問題研究所^{※1}では、2040年には62,928人、そして2060年には51,633人と推計しているのに対し、本市の人口ビジョンでは、地方創生の取組^{※2}を実施することにより、2040年には77,481人、そして2060年には70,080人に引き上げることを目標としました。

第2次始良市総合計画においては、計画の目標年次の前後である2025年に人口8万人を達成することを目標とします。

この目標を達成するために策定した「始良市総合戦略」に掲げる基本目標

- ①地域資源を活かした活力ある産業、雇用をつくる
- ②魅力あるまちをつくり、新しいひとの流れをつくる
- ③結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する
- ④生涯すこやかで、いきいきと暮らし、支え合える地域をつくる

これら基本目標の達成のため、進行管理による計画の着実な推進により、この目標の実現を図るとともに、常に将来を見据え「人口8万人を目指す」ことを念頭に、時機を失することのないよう、常に人口動態^{※3}を把握しつつ、適切な施策を推進することを第2次始良市総合計画における人口増加対策の基本的な姿勢とします。



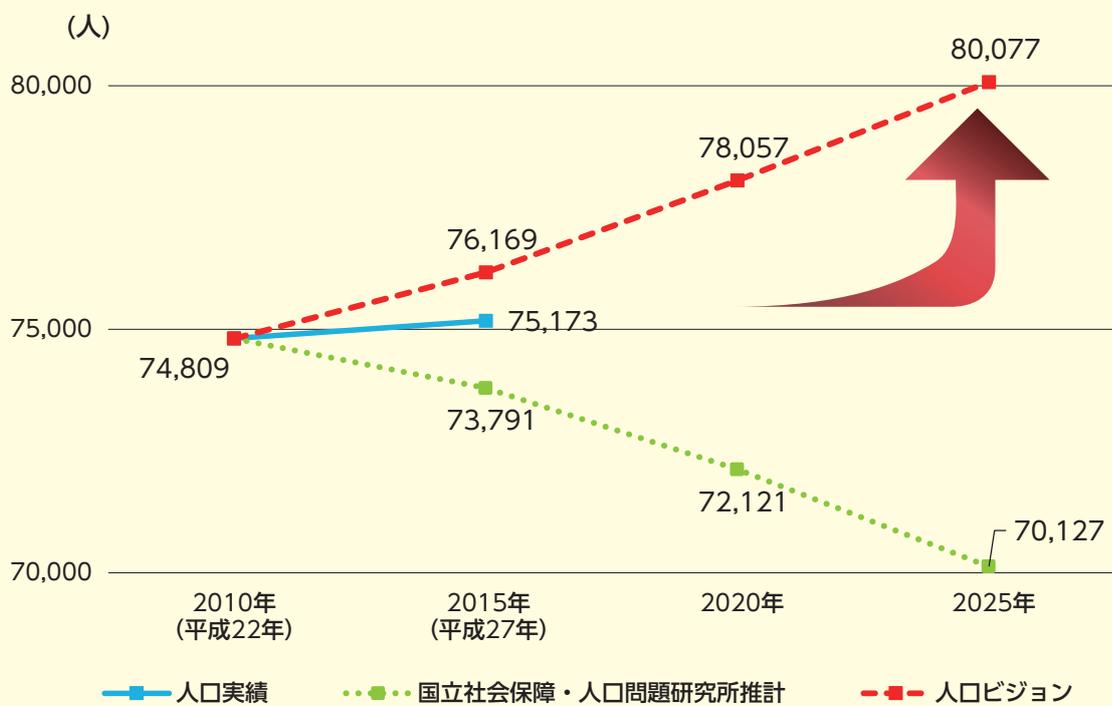
※1 国立社会保障・人口問題研究所：厚生労働省に設置されている国立の研究機関で、人口問題、社会保障について調査研究している

※2 地方創生の取組：2016年3月に策定した「始良市総合戦略」に掲げた4つの基本目標を達成するために実施する各種事業について、事業効果の検証をしながら、着実に推進すること

※3 人口動態：自然動態(人口の自然増減)と社会動態(社会増減)を合計した人口の動き



これまでの人口推移と将来推計



資料：始良市人口ビジョン

基本構想



第2節 施策の大綱

基本理念の実現や目標人口の達成に向け、取り組むべき基礎的な分野について、6つの政策を掲げ、まちづくりを実践します。

1 協働・自治 ～市民と共にまちを創る～

市民一人一人が、まちづくりの主役として、ともに支え合い、助け合うことで、市民や行政と協働する環境が育まれます。そして校区コミュニティ協議会^{*1}や自治会などの地域団体、NPO^{*2}などの市民活動団体、企業、学校、行政など、まちづくりに関わる様々な主体の力を育むとともに、その力を活かした連携・協働を行いながら、市民による地域自治を行政が支え、市民と行政が一体となったまちづくりを進めます。

また、より多くの市民がまちづくりに対して関心を抱けるよう、情報公開や個人情報の適切な管理を行いながら、市民に開かれた市政、信頼される市政、市民に寄添う市政を目指します。

さらに、質の高い行政サービスを継続するために、常に市民の満足度の向上を目指し、行政評価制度^{*3}の適切な運用とその結果を事務事業に反映させる仕組みづくり、民間と協働して行政サービスを提供する体制づくりを進めます。また、市民との協働の場として、多くの市民が集うことができる拠点施設の整備を進めます。そして限られた財源の中で、施策の選択と集中を行い、行政改革大綱^{*4}に基づく健全な行財政運営に努めます。あわせて広域行政の取組についても推進していきます。

2 子育て ～安心して子どもを生き育てる～

子どもを安心して育てることのできる環境を充実させることは、本市への移住・定住の促進、ひいては、地域の活力の維持と発展に結びついていきます。

結婚・妊娠・出産の希望を実現し、安心して子どもを生き、そして育てることができる環境づくりを進めるとともに、子育てと仕事が両立できる環境づくりのために多様な保育ニーズに対応した環境の整備や情報の提供、経済的支援などの充実を図ります。

さらに、市民の宝である子どもたちが、地域に見守られながら、健やかに成長することができるよう、地域社会全体で子育て家庭を支える取組を進めます。

※1 校区コミュニティ協議会：小学校区を単位としたコミュニティ組織で、始良市内全17校区に設置されている

※2 NPO：Non-Profit Organizationの略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称

※3 行政評価制度：市が実施する政策、施策、事務事業について、要した費用に対する効果や成果を測定・評価・検証し、さらに効果的・効率的な方法・手段に改善する手法

※4 行政改革大綱：2016年3月に第2次始良市行政改革大綱を策定し、「市民満足度の向上」と「健全な財政運営」を目指すべき行政運営の姿として、安定的な行財政基盤の確立に向けて取り組んでいます



3 教育・文化 ～健やかで豊かな心が育つ～

次代を担う子どもたちが、多様性を尊重しながら、学力の向上や健やかな成長が図られる教育環境の充実に努めます。また、地域力を強化するため、地域に誇りを持つ人材を育成し、地域と家庭、学校が連携した教育への取組を強化します。

すべての市民が、生涯を通じて多様な経験や価値観を身に付け、生きる力と豊かな人間性を育み、生きがいを持つことができる、社会教育、生涯学習、歴史・文化、スポーツ・レクリエーションなどの活動の充実に努めます。

また、身近な就学の機会や市民の学びの場として高等教育機関^{※5}の創設を目指します。

4 健康・福祉 ～誰もが安心していきいきと生きる～

市民一人一人が、健やかに自分らしい生活を送ることができ、誰もが笑顔で生きていくため、日常の健康づくりに積極的に取り組む環境づくりや意識啓発を、家庭・地域・行政が連携して推進するとともに、市民が必要なときに医療や介護を受けることができるよう、地域医療・介護体制の充実に努めます。このことにより、心身両面での健康の保持と増進を図りながら、「健康寿命^{※6}の延伸」と「生活の質(QOL)^{※7}の向上」を目指し、医療・介護費の適正化に努めます。

また、介護が必要な人や障がいのある人も、自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、保健、医療、教育、福祉サービスを充実させ、お互いに支え合いながら、家庭や地域の中で安心して暮らせる地域包括ケアシステム^{※8}の推進、地域共生社会^{※9}の実現を目指し、支援体制の充実に努めます。



※5 高等教育機関：初等教育(幼稚園、小学校)、中等教育(中学校、高等学校など)の上に続く段階の教育で大学、大学院、高等専門学校、専修学校などの教育機関

※6 健康寿命：人の寿命において「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」

※7 生活の質(QOL)：Quality Of Lifeの略称で、一人一人の人生の内容の質や社会的に見た生活の質のことで、ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出しているか、ということをもとに評価される概念

※8 地域包括ケアシステム：重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステム

※9 地域共生社会：制度・分野ごとの「縦割り」や「受け手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

5 産業・交流 ～まちの魅力が輝き活力にあふれる～

農林水産業をはじめ、商工業、サービス産業等がお互いの持ち味を活かしながら、協力し合うことで、多様な就業機会を創出し、市民の豊かな暮らしを支えることから、市全体の活力につながる取組を推進します。また、本市の地域特性を活かした新しい産業の創出・育成に取り組むとともに、働きやすい環境を整備します。

そのため、地元企業・地場産業の競争力強化の取組や意欲ある担い手の確保・育成のほか、経営基盤の強化など持続的な成長・発展を、産官学金労言^{※1}の連携のもと支援体制の充実を図ります。さらに、新たな産業の創出や育成を支援するとともに、始良市の強み・魅力を情報発信して企業誘致の推進に努め、雇用の維持拡大と産業の活性化を図ります。

また、地域の歴史や文化に育まれた地域資源などの特性を活かし、地域が主体的に取り組む「まち歩き」に代表される着地型観光^{※2}は、地域経済を活性化させるだけでなく、移住者、定住者を見据えた交流人口^{※3}の増加に寄与することから、その取組について支援していきます。さらには、スポーツなど各種大会と観光を結びつける取組などを進めることで、交流人口の拡大を目指します。

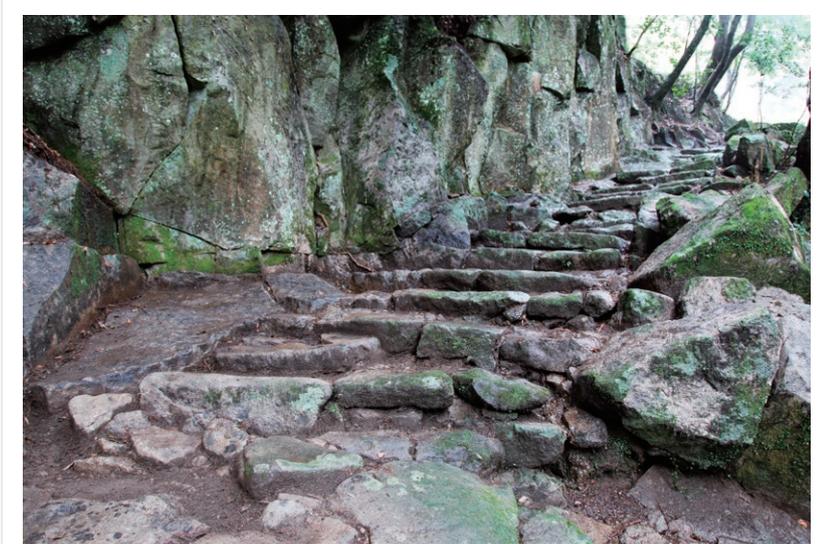
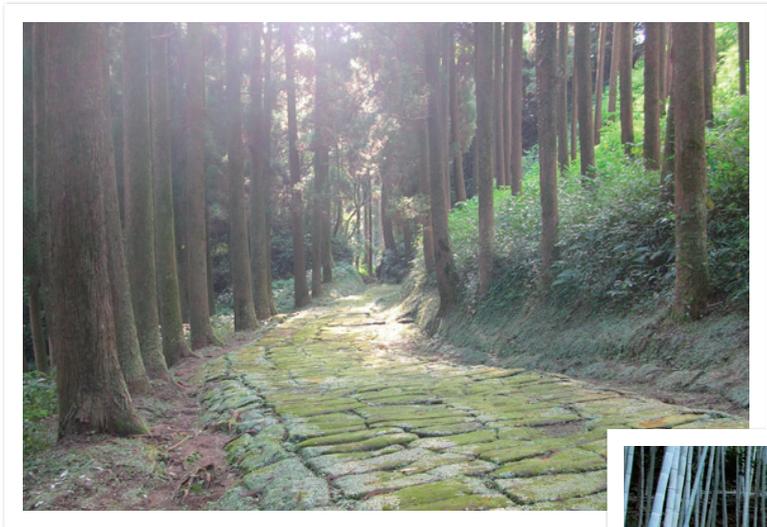
6 安全・安心 ～快適な暮らしを守る～

自然環境の保全や地球温暖化対策など、持続可能なまちづくり^{※4}について、これまでの取組の継続や拡充により、森林や海岸の保全と活用を図ります。また、環境保全に資する循環型社会^{※5}の形成を目指し、ごみの減量化や適正処理、資源の再利用、再生可能エネルギー^{※6}の推進等に継続的に取り組むことで、環境に負荷をかけない暮らしへの転換を推進します。

また、自然災害から市民を守る防災拠点、消防、救急などに迅速に対応できる体制を整備し、様々な防災・減災^{※7}への体制づくりを進めます。さらに、安心して暮らせるよう、関係機関と連携した防犯まちづくりや交通安全対策を推進します。

本市の豊かな自然環境と県央の利便性を更に活かすために、道路網の整備や駅前広場等の開発、水道水の安定供給、生活排水対策など、質の高い住環境を備えた都市基盤整備を進めます。加えて、社会基盤や公共施設を良好に管理し、持続的なサービスを提供していくため、計画的に修繕や更新を行い、その長寿命化^{※8}を図ることで、施設の安全性の確保と安心して利用できる環境を提供していきます。

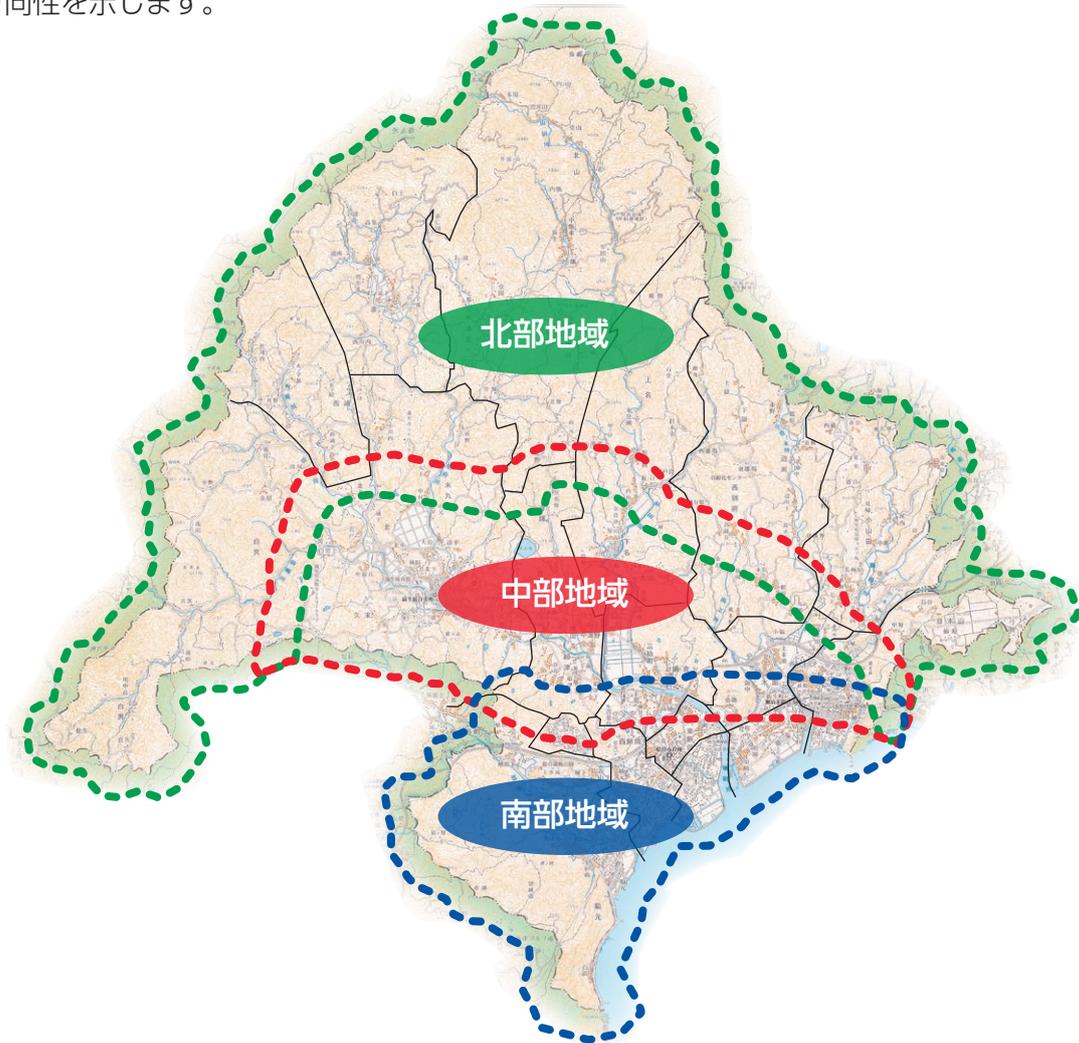
様々な公共交通機関については、その特性や利用者の動向等のデータを分析しながら、それらを有機的に結び付ける方策や、利便性の向上、利用促進のための取組を進め、暮らしやすさと活力を支える基盤を整えていきます。また、ICT^{※9}技術を、健康や福祉、教育、防災、交通、環境といった生活を取り巻く様々な分野で活用し、地域の課題解決や活力の維持・発展につなげることのできるような取組を進めます。



- ※1 産官学金労言：産=民間企業、官=行政、学=教育機関、金=金融機関、労=労働団体、言=メディア
- ※2 着地型観光：地域自らが知恵を出し、工夫を凝らして作成した、その地域のことを深く知ることができる魅力的なプログラムによる観光
- ※3 交流人口：地域外からの旅行者や短期滞在者の数
- ※4 持続可能なまちづくり：すべての人が安全で暮らしやすい居住環境や基本的なサービスが受けられ、自然災害にも強く、社会的弱者にも配慮され、環境負荷が少なく、住み続けることができるまちづくり
- ※5 循環型社会：製品等が循環的な利用により、廃棄されることが抑制されることで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が少ない社会
- ※6 再生可能エネルギー：太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのことで、温室効果ガスを排出しないこと、国内で生産ができるという特徴がある
- ※7 減災：災害による被害をできるだけ小さくする取組
- ※8 長寿命化：施設や設備のライフサイクルの延長だけでなく、戦略的な維持管理・更新等に取り組むことにより、費用の低減や平準化を図ること
- ※9 ICT：Information and Communication Technologyの略称で、情報通信技術のこと

第3節 地域の特性を活かしたまちづくりの方針

本市は、北部に山間部を擁し、山々より流れ出た河川が南部地域に平野部を形成しています。地域の持つ特性は地勢によってもたらされる、あるいは影響されるものであることから、北部を山間地域、中部を中間地域、南部を平野地域とする3つの地域に分け、それぞれの特性や課題に応じたまちづくりの方向性を示します。



北部地域	全域が含まれる校区	北山小校区、西浦小校区、漆小校区、竜門小校区
	一部が含まれる校区	蒲生小校区、山田小校区、永原小校区、柁城小校区
中部地域	全域が含まれる校区	三船小校区
	一部が含まれる校区	蒲生小校区、山田小校区、帖佐小校区、永原小校区、加治木小校区、柁城小校区
南部地域	全域が含まれる校区	重富小校区、西始良小校区、始良小校区、建昌小校区、松原なぎさ小校区、錦江小校区
	一部が含まれる校区	帖佐小校区、加治木小校区、柁城小校区

1 北部地域

1 地域特性と課題

本地域は、北薩火山群に属する山々と十三塚原と呼ばれる台地により構成され、その大部分が森林地帯となっています。森林は、林業資源であると同時に水源や水産資源のかん養、治山による防災など環境保全機能を有し、自然体験やレクリエーション施設等を活用した憩いの場など公益的な役割も担っています。また、台地には畑かん事業により整備された農地が広がり、農産物や農産加工品の産地となっています。

本地域には、4つの小学校があり、各小学校を中心とした集落が形成されています。小学校の周辺には主要幹線道路が整備されており、重要な生活道路として機能しています。

各地区では、校区コミュニティ組織を中心として、地域に存在する豊かな自然や史跡、伝統芸能等を活用した活性化策に積極的に取り組んでいますが、他の地域に比べ少子高齢化の進行が著しく、人口の減少により、農林業の後継者不足や担い手不足、地域力の低下を招いています。人口減少は空き家や未利用地を増加させており、放置された空き家は防犯・防災上の問題となっています。

また、本地域は山間部に位置しており、鳥獣被害が多発していることも大きな問題となっています。鳥獣被害は単に農作物への被害だけではなく、耕作意欲の低下を招くなど、近年深刻となっています。

2 地域特性を活かしたまちづくりの方向性

- ・本地域には、他の地域には無い豊かな森林資源や、「県民の森」、「さえずりの森」に代表される自然とふれあう施設があり、市内外を問わず広域的な交流の場となっています。自然体験型拠点として活用し、交流人口^{※1}の増加に努めます。
- ・移住、定住の促進を図り、地域活力の維持に努めます。
- ・小学校を核とした生活拠点の形成を図り、校区コミュニティを中心とした、地域住民の主体的なまちづくりを支援します。
- ・農業従事者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加が懸念されることから、農地の適正な維持と農地の集約化、担い手育成を進めます。
- ・自然エネルギー・再生可能エネルギー^{※2}の利用促進により、エネルギーの地産地消を進めていくと同時に、貴重な自然環境、多様な生態系を守り、森林のもつ水源かん養、災害防止、環境保全機能の保全に努めます。
- ・本地域は、幹線道路や鉄道、路線バスから距離があることから、鉄道や路線バス、コミュニティバス^{※3}、予約型乗合タクシー^{※4}など多様な交通形態の選択・連携による、公共交通ネットワークの確保と再構築を図ります。
- ・鳥獣被害への対策を強化するとともに、集落ぐるみでの取組について推進します。

※1 交流人口：地域外からの旅行者や短期滞在者の数

※2 再生可能エネルギー：太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのことで、温室効果ガスを排出しないこと、国内で生産ができるという特徴がある

※3 コミュニティバス：交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し委託又は直接により運行する交通

※4 予約型乗合タクシー：デマンド型乗合交通の一種。デマンド、つまり需要があったときに運行する公共交通で、タクシー型の車両により、利用者は乗合により利用する交通

2 中部地域

1 地域特性と課題

本地域は、別府川水系周辺部に広がる市街地、自然環境、歴史文化を維持しながら農業を通じて育まれてきた集落及び蒲生地区の中心市街地で構成される地域です。

主要地方道伊集院蒲生溝辺線、川内加治木線及び鹿児島蒲生線が交差し、幹線道路沿いには商工業施設が集積しつつありますが、蒲生地区の中心市街地は、地域の拠点としての役割を担っているものの、地元商店の活力をいかに維持していくかが、課題となっています。

農業振興地域として、市内の農業生産基盤の中心的役割を持っていますが、農村集落の人口減少、高齢化の進行により活力の低下が懸念されています。また、北部地域と同様に、本地域においても鳥獣被害が発生しており、被害地域の拡大が問題となっています。

2 地域特性を活かしたまちづくりの方向性

- ・地域農畜産業の振興対策として、優良な農業生産基盤の機能を維持しながら、有機農業者を含めた認定農業者^{※1}や新規就農者等担い手への支援及び確保、育成を積極的に進めます。
- ・移住、定住の促進を図り、地域活力の維持に努めます。
- ・地域活性化のため、農林水産物等を活かした加工品作りを推進するとともに、蒲生物産館「くすくす館」などで販売できる体制を強化します。
- ・小学校を核とした生活拠点の形成を図り、校区コミュニティを中心とした、地域住民の主体的なまちづくりを支援します。
- ・中心市街地近郊の利便性を活かした人口の増加に努め、市の新たな人口集積地域として宅地整備等を推進します。
- ・歴史的なまちなみや河川等の水辺を活かし、地域のコミュニティ施設等を、まち歩き観光などの施策と連携させ、観光案内施設や休憩施設などとして活用し、交流人口の増加を図ります。
- ・農業従事者の高齢化等による耕作放棄地の増加が懸念されることから、農地の適正な維持と担い手への農地の集約化の取組を進めます。
- ・鳥獣被害への対策を強化するとともに、集落ぐるみでの取組について推進します。
- ・鉄道や路線バス、コミュニティバス^{※2}、予約型乗合タクシー^{※3}など多様な交通形態の選択・連携による、公共交通ネットワークの確保と再構築を図ります。

※1 認定農業者：効率的・安定的な農業経営などの目標を達成しようとする農業経営改善計画を作成し、市から認定を受けた農業者

※2 コミュニティバス：交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し委託又は直接により運行する交通

※3 予約型乗合タクシー：デマンド型乗合交通の一種。デマンド、つまり需要があったときに運行する公共交通で、タクシー型の車両により、利用者は乗合により利用する交通

3 南部地域

1 地域特性と課題

本地域は、鹿児島(錦江)湾に面しており、加治木港と重富漁港を有し、J Rの重富駅、帖佐駅、加治木駅を中心に形成される市街地や国道10号沿線の市街地、始良駅及び錦江駅周辺の住宅地から構成される地域です。

また、九州縦貫自動車道、隼人道路を経由した東九州自動車道の加治木ジャンクション及び加治木インターチェンジと始良インターチェンジ、国道10号、主要県道があるなど交通の要衝であり、加えて桜島サービスエリアへのスマートインターチェンジ^{※4}の整備も進んでおり、企業の立地が増加しています。

このような交通の要衝であることから、本地域は鹿児島県央域の重要な役割を担っており、駅周辺の市街地には行政や商業サービス等の機能が集約され、始良市における消費生活やサービス産業の中心地機能を果たしています。

また、既成住宅地に加え、民間開発等により新たな住宅団地が造成され、新市街地を形成するなど、他の地域に比べ人口の増加が著しくなっていますが、その結果、道路や雨水排水をはじめとした社会基盤の整備が宅地開発に追いついておらず、通勤通学時の渋滞や豪雨時の冠水などの問題が発生しています。また、局所的な年少人口の増加は、教育施設の不足を招いているところもあります。そのため、安全・安心な都市基盤の整備や、計画的に教育施設を整備していく必要があります。

2 地域特性を活かしたまちづくりの方向性

- ・中心市街地は、利便性に優れた生活・文化交流拠点として整備を推進し、市としての中心地づくりに取り組みます。また、J R駅周辺については、市民や来訪者が集い、交流できる場として駅前広場等の整備を進めます。さらに、市街地内に存在する史跡・旧跡を巡るまち歩き観光により、地域の活性化を図ります。
- ・公園や緑地、河川等の維持・補修などの整備を進めることで「緑」による潤いのあるまちづくりを進めます。また海岸部については、市の観光資源であり、霧島錦江湾国立公園である重富海岸をはじめ、水辺環境の保全や整備、海岸への交通アクセスの向上を推進します。
- ・幹線道路沿いに商業やサービス施設を計画的に誘導し、中心市街地との連携を図り、快適さや楽しさを有する商業空間の形成に努めます。
- ・自然環境との共存の下で、安心して住み続けられる環境づくりを進め、秩序ある市街地の形成を図ります。また、鹿児島(錦江)湾の水質を守るため、地域の状況を考慮しながら、適正な污水处理を図ります。
- ・国道10号白浜・脇元間の4車線化とともに、白浜地区への災害時の一時退避場所の確保及び整備に向けた取組を進めます。
- ・交通の利便性を活かした平松物流用地等への積極的な企業誘致により、新たな雇用の創出を図ります。
- ・小学校を核とした生活拠点の形成を図り、校区コミュニティを中心とした、地域住民の主体的なまちづくりを支援します。

※4 スマートインターチェンジ：高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りできるように設置されるE T C搭載車専用のインターチェンジ